



## 「事業運営の構築に向けて」

理事 團 順 子

今年は東京オリンピック・パラリンピックの開催の年であり、仙台市でもイタリアやキューバのホスタウンとして事前合宿の受け入れや東日本大震災で大きな被害を受けた沿岸部での聖火リレー等が予定されています。

この度の「新型コロナウイルスによる感染拡大防止」で、仙台市でも東北初の感染者が確認されました。

安倍首相の全国一斉要請による全小中高校の臨時休校、不要不急な外出を避けて、会合などへの自粛を全国民に呼びかける感染拡大防止策が取られました。

当会も感染拡大防止の点からの厚生労働省事務連絡に基づく県からの連絡により事業所訪問調査を取りやめ、今後の動向を見守ることになりました。全国民が不安や混乱、落ち着かない状態にあり一日も早く終息し、オリンピックが開催されることを願っています。

NPO法人「一万人市民委員会宮城」が結成して23年目に入り、介護保険制度が施行されて21年になります。保険制度は再三見直しされ、家族にとっては介護負担が軽減されるようになりましたが、その反面、保険料の増加や利用者負担の増加等が重くのしかかってきて、利用回数を減らすことを余儀なくされる方も出ているようです。介護の社会も様変わりし、今では人材不足等もあり、介護



ロボットの導入などが謳われています。ひと昔前までは、大家族だったこともあり、当たり前のように祖父母の介護を家族の皆で助け合っていました。そこには人と人とのふれあひがあり、心の温もりが感じられる瞬間でもありました。

当会では「介護サービス情報の公表」「地域密着型サービス外部評価」「福祉サービス第三者評価」の訪問調査を実施しています。

「福祉サービス第三者評価」の受審は、任意であり事業所としてサービスの質の向上に繋がることは十分に周知されていますが、受審料が高額のため受審に繋がらないのが実情です。

しかし、受審した事業所からは「利用者のありのままを見ていただき、職員が評価を行うことで、日頃のサービス内容が明確になり、新たな気づきが生まれ受審の効果はあった」とのコメントをいただいています。

これからも地道な評価活動に取り組んで参ります。

利用者にとってより良い介護の社会化を進め、NPO法人としての安定的な事業を展開していくために、運営基盤となる訪問調査事業と当会の会員やその地域の住民に向けての地域支え合い推進事業を両輪として、事業運営の構築に努め、更なる活動の充実に向けて、会員の皆様とともに取り組んで参ります。

# 宮城発これからの福祉を考える全国セミナー

報告

～誰もがどんなときでも自分らしく暮らしていくためには～

当会が参加している宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議が主催する「第4回宮城発これからの福祉を考える全国セミナー ～誰もがどんなときでも自分らしく暮らしていくためには～」が2月14日太白区文化センター楽楽楽ホールで開催されました。

県長寿社会政策課梶村課長の地域支え合いを推進する宮城県の役割と題した基調報告と第1部各市町村の取り組み紹介、第2部地域共生社会に向けた地域づくりの二部構成でのセミナーでした。東北6県、兵庫、茨城から約350名が参加し盛況でした。

基調報告では地域支え合い・生活支援推進連絡会議が核となって、住民と考え方を共有した医療・介護・予防・住いに関わる多職種と民間企業、NPO法人、ボランティア、町内会、老人クラブ等多機関とが地域の多様な資源=お宝(体操サークル、趣味の集い、サロン、見守り、お茶飲み仲間等)とが連動して地域全体を支える活動支援など「地域包括ケア」の実現に向けて、これまで取り組んできました。

その事業開始から5年経過し、市町村ごとに資源も課題も異なることから、その状況にもっと寄り添った支援が必要であることからモデル市町村に重点的にアドバイザーを派遣し、「市町村伴走支援モデル事業」を進めていくとの決意表明でした。

第1部では南三陸町社会福祉協議会の「被災者支援から地域支援へ視点をかえ、先ずは動こう」と各地域へ飛び込んだ地域とのつながりづくりと、秋保町地域包括支援センターの「3つのお(おはぎ、おんせん、おおたき)」からの地域のお宝さがしと見える化のためのマップづくりの紹介でした。

また、協議会設置による地域支え合い支援活動の取り組みとして、角田市と兵庫県淡路市の社会福祉協議会から「こうなったらいいな！」の生活実現型活動づくりと進め方の工夫の報告がありました。



第2部では生活支援コーディネーターの配置による「地域共生社会に向けた地域づくり～共に生きる社会の実現に向けて～」として、つるがや地域包括支援センターが復興公営住宅住民との茶飲み話から楽しく暮らすために地域で何かできることはないかとチラシや活動場所探しを行い、地域協力者の支援で「つるがや畑プロジェクト」を発足し収穫祭、お茶っこサロンで地域と交流している事例や、栗原市のお茶っこ会、気仙沼市の踏切手前のお茶処など地域の居場所づくりなど地道な活動紹介でした。一方、茨城県日立市の小学校区ごとに設置した交流センターを活動拠点とした長期に続く住民主体総参加住みよいまちづくりの組織的な活動紹介など地域の住民や状況による多様な活動の紹介がありました。



## 「地域支え合い推進委員会」だより



第18回通常総会で承認された事業計画に基づき「今すぐできること」として、推進委員会では①地域福祉の未来に向けて、学習活動・交流活動・話し合い活動を支援・協働する②会員間交流の更なる深化を図り、地域住民や関係諸団体等と連携しながら地域共生社会の実現に向け活動を推進することを目標と定め、理事会の承認を受け活動を進めました。



平成31年1月と3月に実施した全体会員交流会のアンケートに地域ごとの交流を進めたいとの意向があり、地域情報などの話し合いや学習活動などをテーマに①泉区将監市民センター、②太白区中央市民センター、③宮城野区中央市民センターの3地域で地域交流会を開催し、会員延べ45名、会員外21名の方が参加しました。

具体的には、総合南東北病院 南東北岩沼PET

高度診断治療センター健診エリアリーダー中島俊一氏を講師に迎え、最後まであきらめない、白血病や舌がん治療、標準治療と先進医療についての「健康セミナー」と地域包括支援センタースタッフからの地域情報や業務状況説明、村田耕造会員の集いの場を和ませるアイスブレイキングや鳥谷部祥子賛助会員のかっぱれ踊り、お茶っこ会を実施しました。

また、9月30日に実施した会員交流会では、村田耕造会員の軽妙洒落なトークで進められる脳活性化トレーニングや替え歌の歌唱指導により、会員同士のコミュニケーションが円滑に深まりました。あわせて持ち寄った提供品によるバザーを開催し参加者の協力で今後の活動資金を得る事ができました。



## みやぎ介護サービス便利帳

当会では2005年、県内の特別養護老人ホームの経営者・管理者の皆様方の賛同を得て、施設の特徴、ユニットケアの状況などケアに関する主な項目について、インターネットで公開(見える化)する「みやぎ介護サービス便利帳」を開設し、各特別養護老人ホームの新しい取り組みや変更内容などの更新を毎年行っています。

2019年度は新たに仙台市の「大年寺山ジェロントピア」「せんだんの里」を追加掲載しました。現在県内64ホームを閲覧することができます。

【2019年1年間のアクセス数は5万3千件でした。】

### 「みやぎ介護サービス便利帳」の閲覧方法

一万人民委員会のホームページを開きます

<http://www.ichimannin.com>

福祉介護あれこれ

福祉介護豆辞典

認知症豆知識

成年後見豆知識

**みやぎ介護サービス便利帳**

県内の64特別養護老人ホームを閲覧できます

# 市民目線で見えた介護保険制度導入から20年

~~~この20年を振り返って~~~

副代表理事 荒井勝子

一万人市民委員会は、1997年1月に「介護地獄からの解放と介護の社会化」を掲げて、宮城県民の会を結成し活動を始めました。

2000年4月には、これまで家族だけで担っていた高齢者の介護を社会全体で支え合う「介護の社会化を」目指して導入された介護保険制度が20年を迎えます。

当初は、見切り発車の感もあり新たな社会保険制度でもあることから、導入当初は制度の仕組みが良くわからない方も多く「介護保険料を払っているが満期にはいくら戻りますか？」と聞く方もいました。

介護保険は施行から5年後をめぐりに必要な見直し改正が行われてきました。

## ◆2005年には

- ①介護予防サービスを導入し、要介護度を6段階から7段階にし、要介護者への給付は「介護給付」、要支援者への給付を「予防給付」として、要支援者のケアマネジメントは新たに創設された「地域包括支援センター」が行うことなど予防重複型システムへの転換
- ②認知症高齢者や中重度の要介護高齢者等が、出来る限り住み慣れた地域で生活が継続できるように、市町村指定の事業者が地域住民に提供する地域密着型サービスの創設、利用者が介護サービスや事業所・施設を比較・検討して適切に選ぶための情報を提供する介護サービス情報の公表制度が導入

註:「痴呆」という用語を「認知症<sup>\*1</sup>」へ変更。

## ◆2010年

~介護保険10年を振り返って~  
「市民目線に立った改革案づくりを」

樋口恵子氏を基調講演講師に迎え、上記をテーマにしたシンポジウムを開催

## ◆2011年には

- ①高齢者が住み慣れた地域でその有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう医療、介護、介護予防、住まいおよび自立した日常生活の支援が包括的に確保される「地域包括ケアシステム」の実現
- ②医療的ケアが継続的に必要な方に対し「通い」「泊まり」「訪問介護」「訪問看護」「ケアプラン」を柔軟に組み合わせ、介護・看護を提供する「複合サービス<sup>\*2</sup>」(看護小規模多機能型居宅介護)の創設
- ③介護人材の確保とサービスの質の向上

## ◆2012年には

- ①認知症の初期からの支援などを示した「認知症施策推進5か年計画」(オレンジプラン策定)
- ②予防給付を地域支援事業に移行
- ③低所得者の施設利用者の食費・居住費を補填する補足給付の要件に資産などを追加

## ◆2015年には

- ①「一定以上の所得」のある利用者の自己負担を2割へ引き上げ
- ②特別養護老人ホームの入所対象者を原則「要介護3以上」に引き上げ
- ③要支援1、2の人の介護予防サービスのうち、訪問介護、通所介護が給付から外れ市町村の地域支援事業に移行

## ◆2018年には

- ①「特に所得の高い層」は3割負担に引き上げ
- ②福祉用具貸与価格の見直し
- ③新しい介護保険施設である「介護医療院<sup>※3</sup>」の創設
- ④介護保険と障害福祉を融合した「共生型サービス」の実施
- ⑤介護事業所の人材育成や働きやすさの取組を公表(見える化)するための「みやぎ介護人材を育む取組宣言認証制度」の制定等々様々な見直しが行われました。

この20年間で振り返ってみますと

### ★良かった点として

- ①介護を社会全体で支えるという「介護の社会化」の認識が浸透したこと
- ②民間業者やNPO法人等民間の事業者が参入しサービスの拡大につながったこと
- ③介護を抱え込まず多様なサービスを利用することで家族の負担が軽減されたこと 等

### ★課題として

#### ① 介護人材の不足

介護現場は限界です。人材確保はもはや待ったなしです。

介護ロボット、情報通信 技術 (ICT) 等を導入し、職場の環境を抜本的に変えて行く事も大切と思いますが職員が安心して働ける処遇改善(賃金水準の確保・働き方改革等)を早急に検討し人材確保対策の積極的な取組

#### ②介護離職を無くすための環境整備

介護離職は年間およそ10万人。育児休業の支援は進んでいますが、介護のための休職の支援はまだまだ遅れています。高齢化時代誰にでも起こりうる介護離職を防ぐため、介護と仕事の両立が出来る環境の整備

#### ③保険料の見直し

制度の持続性の確保と低所得者の保険料軽減の拡充支援等の見直し

#### ④元気な高齢者の社会参加の呼びかけ

高齢者は社会や地域の為に役に立つ働きをし

たいと考えています。元気な高齢者は地域の宝です。近隣住民で支える地域づくりや社会とのつながりを求めています。機会がないだけです。

人生100年と言われる今、「生活支援コーディネーター」講座の門戸を広げ町内会の元気な高齢者に呼びかけ受講参加への声掛けを行い、きっかけづくりの場の提供による地域共生社会への実現の取組推進

などがあげられます。

#### ※1【認知症】

・痴は「おろか」呆は「ぼんやり」といった侮蔑的な意味合いが含まれる漢字を用いていること  
・痴呆という言葉を使うことで、本人の状態が正しく理解されにくい状況を作っていること  
・痴呆になることは怖いことであり、恥ずかしいことであるという認識が広がっていること  
などから、平成16年に制度上「痴呆」という表現を用いるのが果たして適切かどうかの検討が行われ、2年もの検討期間を経て「痴呆」が「認知症」に変更された。

#### ※2【看護小規模多機能型居宅介護】

要介護度が高くなった方や医療的ケアが必要になった方でも、できるだけ自宅を中心として日常生活を送ることができるよう、支援するサービスで「小規模多機能型居宅介護」に「訪問看護サービス」が追加された。

小規模多機能型居宅介護サービスだけではケアしきれなかった、医療面でのサポートが必要な人の受け入れができるので、末期がんなどで終末期を迎えた方や、認知症の方などの利用も可能。

#### ※3【介護医療院】

介護医療院とは、要介護者であって、主として長期にわたり療養が必要である者に対し、施設サービス計画に基づいて、療養上の管理、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行うことを目的とする施設。

# 新型コロナにまけるな！

今回の新型コロナウイルスは、免疫力の低い高齢者・基礎疾患（高血圧症や糖尿病など）がある人に発症が多く、重篤化しやすい傾向があります。

集団感染（クラスター）発生率の高い場所の共通点は、三つの密「換気が悪い密閉空間」、「多くの人が密に集まって過ごす密集場所」、「不特定多数の

人が間近で会話や発生をする密接場面」です。具体的にはスポーツジム、屋形船、ビュッフェスタイルの会食、雀荘、スキーのゲストハウス、密閉された仮設テント等です。

これらの場所には近寄らないようにすることが肝要です。

## ◆感染しないようにするために

石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒などを行い、十分な睡眠をとることも重要です。

また、できる限り人込みの多い場所は避けて、屋内でお互いの距離が十分に確保できない状況で一定時間を過ごすときはご注意ください。

### (1) 手洗い

ドアノブや電車のつり革など様々なものに触れることにより、自分の手にもウイルスが付着している可能性があります。

外出先からの帰宅時や調理の前後、食事前などこまめに手を洗いましょう。

### (2) 普段の健康管理

普段から、十分な睡眠とバランスのよい食事を心がけ、免疫力を高めておきましょう。

### (3) 適度な湿度を保つ

空気が乾燥すると、のどの粘膜の防御機能が低下します。乾燥しやすい室内では加湿器などを使って、適切な湿度（50～60%）を保ちましょう。

## ◆ほかの人にうつさないために

### <咳エチケット>

咳エチケットとは、感染症を他者に感染させないために、咳・くしゃみをする際、マスクやティッシュ・ハンカチ、袖、肘の内側などを使って、口や鼻をおさえることです。

対面で人と人との距離が近い接触（互いに手を伸ばしたら届く距離でおよそ2mとされています）が、一定時間以上、多くの人々との間で交わる感染しやすい環境に行くことを避け、手洗い、咳エチケットを徹底しましょう。



## 事務局からのお知らせ

第19回通常総会を令和2年5月28日（木）に開催する予定ですが新型コロナの関係から詳細につきましては別途ご案内ことといたします。

## 新型コロナ対策は万全？

去る3月31日の理事会はマスク着用、消毒薬による手洗いの万全の体制で行われました





理事会模様

◆2019年度第5回理事会

★令和2年1月28日(火)、仙台市生涯学習支援センターにおいて第5回理事会が開催されました。

主な活動報告、審議事項は次のとおり

- 1、2019年度各事業進捗状況報告並びに提案審議事項について
  - 1) 地域支え合い活動
  - 2) 情報の公表制度訪問調査活動
  - 3) 地域密着型サービス外部評価活動
  - 4) 福祉サービス第三者評価活動
  - 5) みやぎ介護人材を育む取組宣言認証制度第2段階確認調査活動
- 2、広報、財政、組織、総務関係について
- 3、諸会議、研修会などの実施・参加状況と今後の計画について
- 4、2020年度に向けた活動方針、事業計画について
- 5、その他

◆2019年度第6回理事会

★令和2年3月31日(火)、仙台市生涯学習支援センターにおいて第6回理事会が開催されました。

主な活動報告、審議事項は次のとおり

- 1、第19回通常総会開催に向けての議案書(案)作成並びに準備事項について
- 2、2019年度各事業進捗状況報告並びに提案審議事項について
  - 1) 地域支え合い活動
  - 2) 情報の公表制度訪問調査活動
  - 3) 地域密着型サービス外部評価活動
  - 4) 福祉サービス第三者評価活動
  - 5) みやぎ介護人材を育む取組宣言認証制度第2段階確認調査活動
- 3、広報、財政、組織、総務関係について
- 4、諸会議、研修会などの実施・参加状況と今後の計画について
- 5、その他  
(詳細については事務局備付けの議事録を閲覧願います)

令和元年度評価・調査活動状況

◆福祉サービス第三者評価調査

- ①特別養護老人ホーム楽園が丘②軽度老人ホーム松香の郷③ニチイキッズニッセイみらい仙台しんてら保育園④ニチイキッズ仙台さかえ保育園⑤ニチイキッズ仙台くろまつ保育園⑥仙台むつみ荘(社会的養護施設)の評価調査実施

\* 公表結果は一万市民委員会宮城ホームページ (<http://www.ichimannin.com>) をご覧下さい。

◆介護サービス情報の公表訪問調査

介護サービス情報の公表訪問調査を9月から開始しました。

|                |         |
|----------------|---------|
| ・介護老人福祉施設      | ： 22施設  |
| ・訪問介護          | ： 59施設  |
| ・訪問入浴介護        | ： 7施設   |
| ・福祉用具貸与        | ： 10施設  |
| ・居宅介護支援        | ： 69施設  |
| ・介護療養型医療施設     | ： 0施設   |
| ・特定施設入居者       | ： 11施設  |
| ・通所介護          | ： 153施設 |
| ・訪問看護          | ： 15施設  |
| ・介護老人保健施設      | ： 6施設   |
| ・通所リハビリテーション   | ： 7施設   |
| ・訪問リハビリテーション   | ： 3施設   |
| ・認知症対応型共同生活介護  | ： 55施設  |
| ・小規模多機能型居宅介護   | ： 14施設  |
| ・複合型サービス       | ： 4施設   |
| ・定期巡回・随時訪問介護看護 | ： 0施設   |

合計：435施設

\* 公表結果は、<http://www.kaigokensaku.jp/> をご覧ください。

◆地域密着型サービス評価調査

- ・認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

合計：126施設

\* 自己評価及び外部評価結果はワムネット、<http://www.wam.go.jp/> をご覧ください。

# 読書の楽しみ

## 代表理事 熊谷道夫

読書の話ですが「一か月に新書を最低三冊読破する」との私約を實踐しています。

ツールは新聞、週刊誌の書評欄です。最近見つけた新書は、『老いのゆくえ』黒井千次〈著〉一九三二年五月生まれの作家です。

哲学者の柄谷行人さんが、書評を書いています。

本書は、二〇〇五年から新聞に連載された随筆を集めた『老いのかたち』『老いの味わい』の続編です。

著者は、「可能な限り率直に、老いていく自分を描き、その感覚や感情を記していくことを目指した」と書いています。

書評者が「自分らしさを見出す、初々しい老年論」と言うのも、頷ける理由になっていきます。

この新書の新聞広告に次の活字が躍っていました。

『人は自らにふさわしい老い方をするより、他にない。

運転免許証を返納した。  
転倒が増えた。……

八十五歳と言う新たな区切りを超えた作家が、達意の文章で描く「老いの日常」優先席での年齢比べ、一向に進

まない本の整理、曲げた腰を伸ばす難しさ、隙をみては襲ってくる眠気、病気の頃の付き合い方、いずれも七十歳代の頃とは何か徐徐に変わっている。

この先の時間に思いを馳せながら、年齢を重ねるなかで生じる失敗や戸惑い、さらに発見や喜びも余さずつづる、老いの日々のスケッチ。』五十六篇のエッセイです。

【(注)昨年十二月に、日本芸術院新会員が発表になり、歌舞伎俳優の「坂東玉三郎」さんが新会員になりました。新聞で知ったのですが、現在日本芸術院は、院長が黒井千次さんになっているようです。】

黒井さんは一九八四年「群棲」で谷崎潤一郎賞、平成七年「カーテンコール」で読売文学賞を受賞するなど、現代人の内面を精緻にえがき「内向の世代」の作家の一人と言われ何作か読んだ記憶があります。

今年、東京五輪の開催など、騒々しい一年になると思いますが、「時の流れ」を注視して、浮つくことなく暮らしたいと思えます。

### ◆よろず相談会のご案内

法律、成年後見関係の分野に限らず、会員やその家族、知人の方がお持ちの生活全般に関わる「困りごと」「悩みごと」などなんでも相談会です

2020年(令和2年)4月から7月までの開催日程は下記のとおりです。

#### ☆開催日程

- ・4月21日(火) 相談役 武田貴志 弁護士
- ・5月21日(木) 相談役 安田廣治 司法書士
- ・6月24日(水) 相談役 武田貴志 弁護士
- ・7月21日(火) 相談役 安田廣治 司法書士

### 【編集後記】

新元号『令和』初の新年は、2回目の東京オリンピック開催で「楽しみな年になるか!?!」と思っていたのも束の間、今やコロナウイルス感染騒動でごった返している。国内の感染者数も増えている中、有名芸能人の陽性反応とオリンピックの来年延期報道に、狭い日本は本当に大丈夫かと不安を隠さずにはいられない。

桜の花も開き始めたこの時期、当会報を読まれる皆様にはくれぐれもコロナウイルス感染対策を實踐され、ご自愛されますよう祈念し、編集後記とします。

昨年末より編集委員の一員に加わりました。  
 よろしく願いいたします。 (曾根 務)



特定非営利活動法人  
 介護の社会化を進める  
 一万人市民委員会宮城県民の会

編集委員

荒井 勝子 阿部 洋子 柏倉 勝 兼平 幸雄  
 工藤 俊廣 曾根 務 本田 裕子 前田 泰子